

ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥
「内部環境調節機能障害／性・生殖機能障害」正誤表

第3版第1～5刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んで訂正し、お詫びいたします。

第4章「尿路の機能障害」 第1節「尿路の機能障害と治療」

2項「尿路の機能障害の主な原因・疾患と治療」

p. 94 下から6～5行目

【誤】

・尿流量検査：尿勢と排尿時間を測定する。最大排尿量が15mL/分以下なら中程度、5 mL/分以下なら高度と判定する。

【正】

・尿流量検査：尿勢と排尿時間を測定する。最大排尿量が15mL/秒以下なら中程度、5 mL/秒以下なら高度と判定する。

第8章「尿路の機能障害のある患者の看護」 第1節「尿路の機能障害の検査と看護」

2項「臨床検査と看護」

p. 151 下から3～2行目

【誤】

200mL 以上排尿できた場合、最大尿流率が15mL/分以上なら正常である。

【正】

200mL 以上排尿できた場合、最大尿流率が15mL/秒以上なら正常である。

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

第7章「腎機能障害のある患者の看護」

p. 129 図7. 1-2●慢性腎臓病の各病期の特徴と看護目標

【誤】

| 病期 eGFR区分 | A1 |
|--------------|---|
| G1 | 〈患者の状態〉 ・無症状 ・腎機能は潜在的に悪化 ・行動変容ステージ：無関心期 〈看護目標〉 ・ <u>肝機能低下</u> について理解できる ・受診の必要性が理解できる ・腎機能悪化予防のための日常生活の理解と実行 |
| G2 | |

【正】

| 病期 eGFR区分 | A1 |
|--------------|---|
| G1 | 〈患者の状態〉 ・無症状 ・腎機能は潜在的に悪化 ・行動変容ステージ：無関心期 〈看護目標〉 ・ <u>腎機能低下</u> について理解できる ・受診の必要性が理解できる ・腎機能悪化予防のための日常生活の理解と実行 |
| G2 | |

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

第10章「性・生殖機能の障害」

p. 198 表10. 1-6●婦人科腫瘍に比較的良好に使用される化学療法薬

【誤】

| 種類 | 作用 |
|---------|---------------------------------|
| アルキル化薬 | 細胞の増殖を阻害する |
| 代謝拮抗薬 | 細胞の成育に不可欠な物質の合成や代謝を阻害する |
| 抗生物質 | がん細胞のDNAに作用し、 <u>拡散</u> 合成を阻害する |
| 白金製剤 | がん細胞のDNAに作用し、 <u>拡散</u> 合成を阻害する |
| ホルモン療法薬 | 性ホルモン受容体の結合と拮抗することで細胞増殖を阻害する |

【正】

| 種類 | 作用 |
|---------|---------------------------------|
| アルキル化薬 | 細胞の増殖を阻害する |
| 代謝拮抗薬 | 細胞の成育に不可欠な物質の合成や代謝を阻害する |
| 抗生物質 | がん細胞のDNAに作用し、 <u>核酸</u> 合成を阻害する |
| 白金製剤 | がん細胞のDNAに作用し、 <u>核酸</u> 合成を阻害する |
| ホルモン療法薬 | 性ホルモン受容体の結合と拮抗することで細胞増殖を阻害する |

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

第2章「内分泌機能の障害」 6節「内分泌機能障害の診察・検査」
本文 p. 60 下から4行目

【誤】

①副甲状腺機能低下症：高カルシウム血症による多飲・多尿，胃腸障害，意識障害などがある。

【正】

①副甲状腺機能亢進症：高カルシウム血症による多飲・多尿，胃腸障害，意識障害などがある。